

## 5 - 5 東海地域における最近 18 年間の地震活動

### Seismic activity around Tokai region in recent 18 years

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

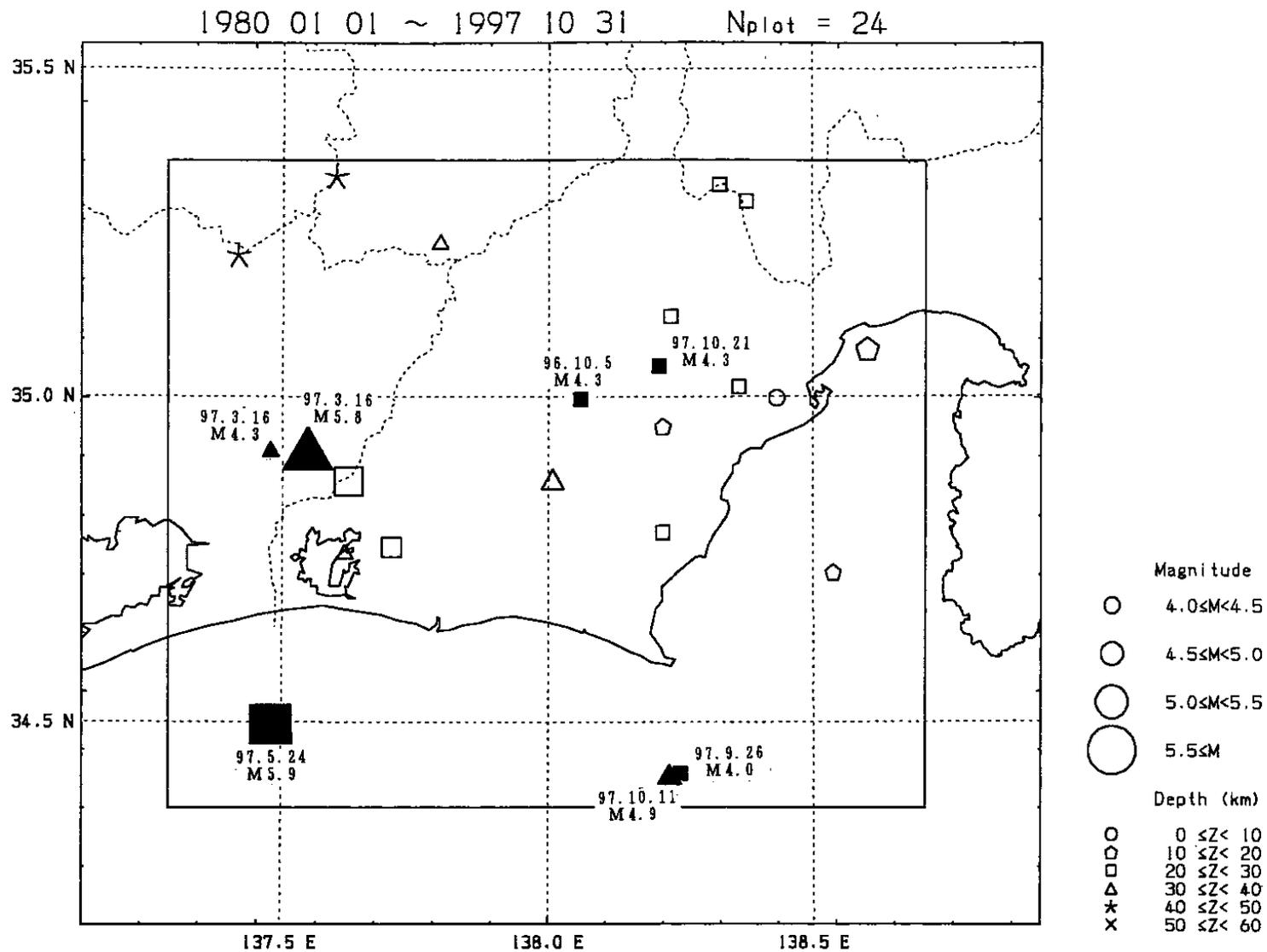
第 1 図は、過去約 18 年間に東海地域で発生した  $M \geq 4$  の中規模地震の震央分布と積算地震回数を示す。総数は 24 個となっているが、震央分布において黒く塗り潰されているのは最近 1 年間に発生したものであり、7 個を数える。従って、1 年前までの 17 年間では 17 個の発生となり、ほぼ 1 年に 1 個の発生率であったということがわかる。この 1 年の中規模地震の連続的発生は異常なものと言えよう。なお、ここでのマグニチュードは気象庁の値を用いている。

第 2 図は、微小地震まで含めて最近約 18 年間に東海地方で発生した地震活動の震央分布を示している。図中の A, B, C, D の矩形領域は、東海地域における顕著な震源密集域を表わしており、それぞれ、浜名湖周辺(領域 A)、掛川西方(領域 B)、岡部周辺(領域 C)、石花海周辺(領域 D)である。

第 3 図は、この各々の領域において発生した地震の積算地震回数を、全領域の積算地震回数とともに示したものである。縦軸のスケールは地震総数でノーマライズしてある。なお同図には、第 1 図(b)に示した  $M \geq 4$  の中規模地震の積算地震回数も重ねて示してあり、また参考として、国土地理院の水準測量による掛川に対する御前崎の沈降の推移も時間軸を合せて示してある。

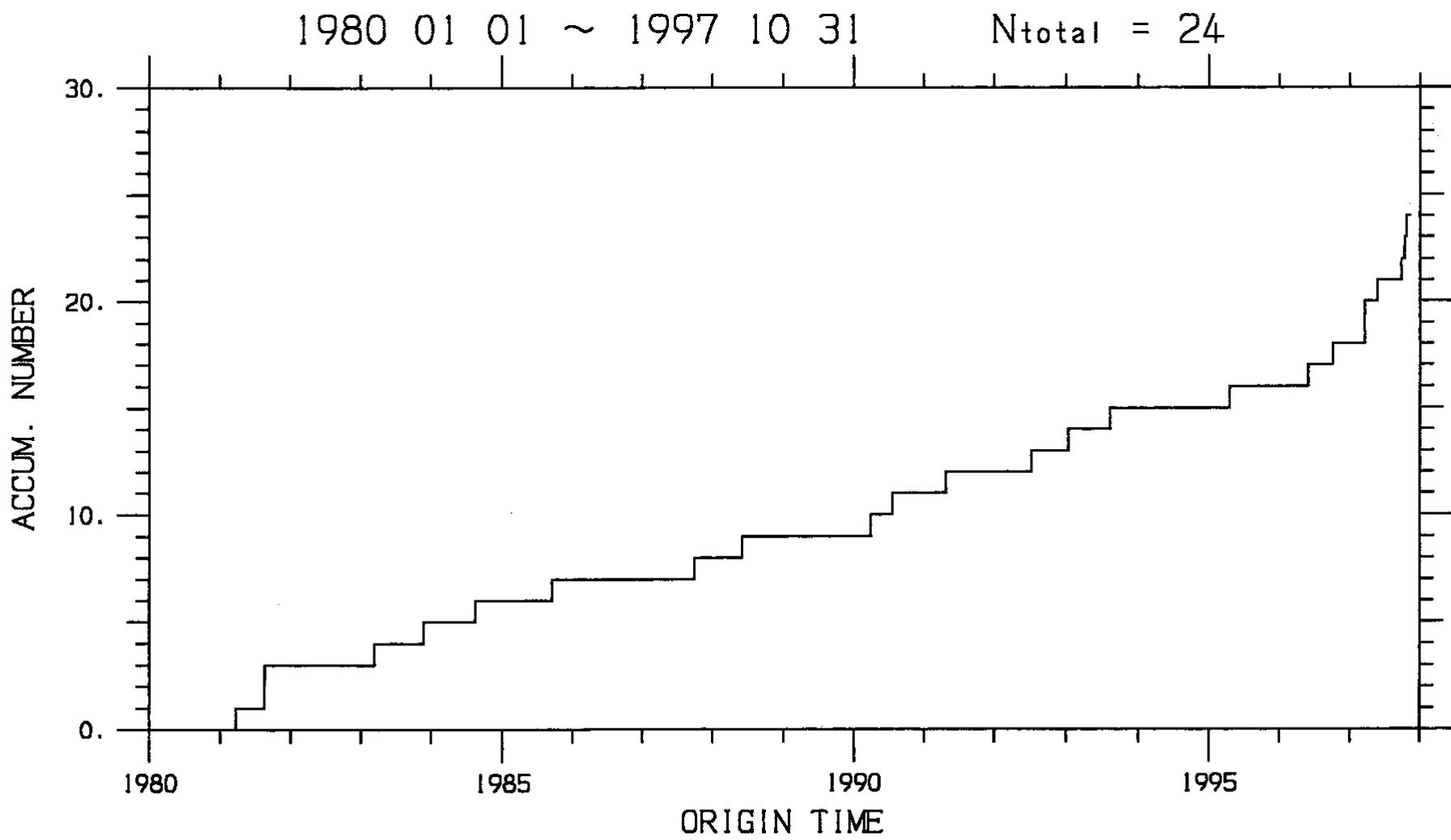
微小地震まで含めた全領域における地震数の積算率はほぼ一定である。また、領域 B, C における地震発生も比較的定常的であるが、領域 A (浜名湖周辺)の地震活動は 1990 年頃より加速したのち、1994 年に入って急激に低調化する変化を見せている。また、領域 D (石花海周辺)では 1995 年より地震活動が活発化している。このような 1994 ~ 1995 年頃の地震活動の変化は、御前崎の沈降が停滞気味となり、変化のばらつきが大きくなった時期にほぼ同期している。

(岡田義光)

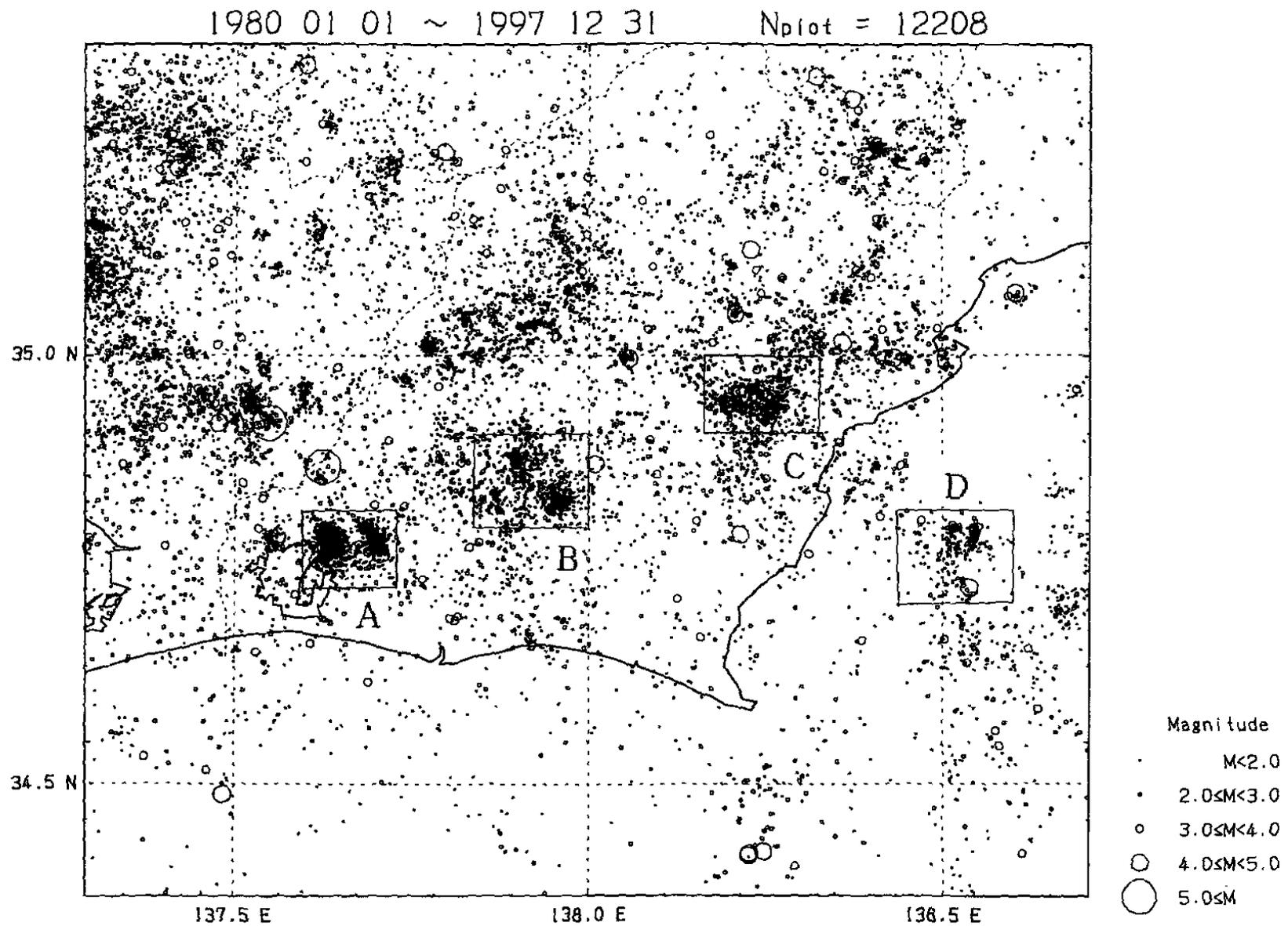


第 1 図 過去約 18 年間に東海地域で発生した M 4 の地震の(a)震央分布と(b)積算地震回数。震央分布で塗り潰されたマークは、最近 1 年間に発生した地震を示す。

Fig.1 (a)Epicentral distribution and (b)cumulative number of moderate earthquakes of magnitude 4 or larger which occurred in Tokai region in recent 18 years. Closed symbols show the events which have occurred in the last year.

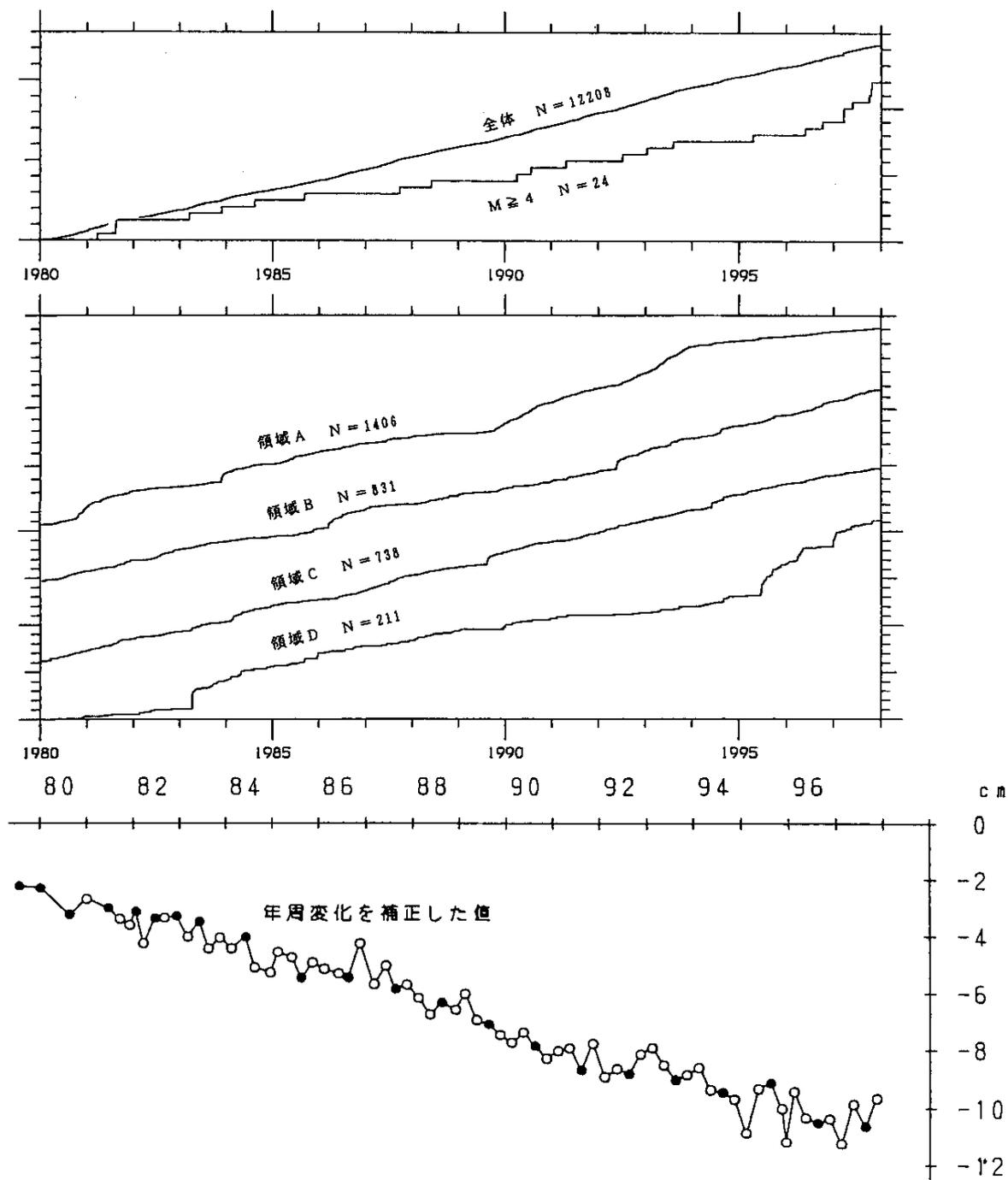


第1図 つづき  
Fig.1 (Continued)



第2図 最近約18年間の東海地方における微小地震活動の震央分布

Fig.2 Epicentral distribution of microearthquakes which occurred in Tokai region in recent 18 years.



第3図 第2図に示した全領域における積算地震回数と、領域A(浜名湖周辺), B(掛川西方), C(岡部周辺), D(石花海周辺)における積算地震回数。最下段は、掛川に対する御前崎の沈降の推移 [ 国土地理院 ] を参考までに示す。

Fig.3 Cumulative number of earthquakes in whole region of Fig.2 and each cluster, A,B,C,D in Fig.2. Subsidence history of Omaezaki relative to Kakegawa found with leveling survey by Geogr.Surv.Inst. is also shown for comparison.